

## 大学院「健康情報学研究科」の発足と高度な人材の育成

学長 景山 節

2025年度に名古屋文理大学に大学院「健康情報学研究科」修士課程が設立され、7名の院生が入学して大学院教育が始まりました。本学は70年前の1956年に民間の食糧科学研究所をもとにして栄養士養成の専門学校が創られたことから始まっています。その後、1966年滝川学園が設立され、名古屋栄養短期大学が開学、1999年には名古屋文理大学が開学しました。26年を経過して、大学院の設立となり、学園は短大、大学、大学院を有する高等教育機関となっています。

大学院の修士課程修了時には、最短で24歳となり、義務教育の小学校から始まって、大学院を終えるまでの期間は18年間という長い期間になります。近年の日本の大学における修士課程進学者は約8万人であり、大学卒業生の10%になります。大学院で高度な教育を受けた人材は、これからの日本の社会を担っていく人材として、今後その必要性はますます高まっていくものと考えられます。狭い国土と限られた資源の我が国では、人材の育成が、国を支えていくため、また今後の発展のため必須となるからです。

名古屋文理大学・大学院は食・栄養・情報を教育の3つの柱としています。食と栄養は非常に近い関係にあり学園創立以来の教育内容です。食や栄養の分野では、様々な計算に電子計算機（コンピュータ）をいち早く取り入れてきましたが、これからの情報社会の到来を見越して「情報」を3つ目の柱としました。この食・栄養・情報の3つを教育の柱としていることは、本学の他大学に無い強みと考えています。現在、情報の普及は予想以上の速さで進んでおり、各学問分野はそれを取り入れないでは成り立たないのが現実です。大学院「健康情報学研究科」では、この3分野を基盤として、高度な専門分野を学修することになります。

大学院での教育は、学部の教育と比べると、かなり進め方が異なっています。学部の4年間では、知識と技術を学ぶため、講義や実習の時間割が組まれ、定期試験がおこなわれ、単位が認定されることで、卒業できることとなります。大学院でも講義や実習があり、単位を取得する点は同じですが、大きな割合を占めるのが修士論文の作成になります。そのため、教員の指導により、あるいは教員との議論を重ねることにより、修士論文のテーマを決めることが必要になります。このテーマ、言い換えれば「自分が研究したいこと」を決めるのが大学院の醍醐味であり、院進学の最も大きな理由ではないでしょうか。

大学院では、2年間の成果を修士論文としてまとめます。その内容を学会などで発表するとともに、紀要や国内外の学術雑誌に投稿し、採用されたら学術論文として印刷公表されます。私たちの社会は、このような研究成果に様々な人が注目し、活用したり、応用したりしています。名古屋文理大学大学院の院生のみなさんから、日本や世界に影響を与えるような研究成果がでることを期待します。また、その成果を生かして、これからの社会で活躍してくれることを望んでいます。